

【背景と目的】

Genotype 1b、高ウイルス量の C 型慢性肝炎に対する pegylated interferon (PEG-IFN)、ribavirin 療法の治療効果に寄与する最も重要な因子はインターロイキン 28B(IL28B) の genotype である。IL28B minor genotype 症例の治療効果は protease inhibitor を加えた治療でも良好とはいえない。今回我々は、ribavirin を併用した interferon(IFN)- β 1 日 2 分割先行投与の有用性と治療早期の HCV RNA dynamics について、通常の PEG-IFN/ribavirin 療法と比較し検討した。

【方法】

同意が得られた Genotype1b, 高ウイルス量の C 型慢性肝炎の患者を PEG-IFN α /ribavirin 療法群と 1 日 2 回分割 IFN- β /ribavirin 先行投与群に割り付け治療初期の HCV-RNA dynamics について検討した。両群とも IL28B genotype の相違について、特に minor genotype に着目して検討した。

【結果】

PEG-IFN/ribavirin 療法群 23 例(P 群)、1 日 2 分割 IFN- β /ribavirin 先行投与群 23 例(β 群)の計 46 例が本研究に登録された。両群間の背景因子を比較したところ β 群の方が高齢で、女性、core アミノ酸 70 番変異型が多く、ヘモグロビン低値、血小板低値症例を多く認めた。IL28B minor genotype の割合は β 群(6/23)、P 群(8/23)、と両群間に差を認めなかった。HCV-RNA dynamics について IL28B の genotype 別に検討すると、IL28B major genotype では β 群が P 群よりウイルス減衰が僅かに良好であった。一方 minor genotype 症例では、各群で 1 週後(2.07 vs. 0.76 log IU/mL, P = 0.038), 2 週後(2.73 vs. 1.01, P = 0.009), 4 週後(2.72 vs. 1.55, P = 0.059), 12 週後(4.56 vs. 3.24, P = 0.104)と P 群に比して β 群の minor genotype は良好なウイルス減衰を示し統計学的にも両群間で有意差を認めた。Sustained virological response rates(SVR 率)は IL28B major 症例では β 群 (47.1%, 8/17) 、P 群 (53.3%, 8/15)と両群間で差を認めなかった。一方で minor genotype 症例では β 群(50.0%, 3/6) P 群 (12.5%, 1/8)と数値的には β 群で良好であったが有意差は認めなかった。

【結語】

1 日 2 分割 IFN- β /ribavirin 先行投与後 PEG-IFN/ribavirin 併用療法は、PEG-IFN/ribavirin 療法に比して治療早期の HCV-RNA 減衰を向上させる可能性が示唆され、とくに PEG-IFN α /ribavirin 併用療法において難治とされる IL28B minor genotype において有用である可能性が示唆された。